

【 From Kobe 2016年3月 どこかで 春が生まれてる 】 2016.3.5. by Mutsu Nakanishi



我が家の角先にも春の草花が花をつけだしました 2016.3.1.

1. 弥生3月 どこかで 春が生まれてる 春はもう そこまで
2. 原発再稼働トラブルに見る日本人気質
3. 播磨地域に広がる溜池群を利用したメガソーラー発電所の建設

《1.》 弥生3月 どこかで 春が生まれてる 春はもう そこまで



雌岡山東斜面に広がる雌岡梅林から ピンクの花越しに 須磨から明石海峡・淡路島までの遠望 明石海峡遠望 雌岡山山頂神社より



神出の里の田園地(Ⅰ) 畑の畔に顔を出したフモトウ 雌岡山の雑木林に顔を出した香割草 早春の田園地を明るくする菜の花 神出の里の田園地(Ⅱ)



梅の花ばかりに眼がいていましたが、ふと足元を見ると タンポポやホトケナギ等々 足元は春の野草のじゅうたん

高浜原子力発電所4号機が2月26日 原子炉を起動する操作が行われ再稼働した。これで原子力規制委員会の新規制基準の下で再稼働したのは2つの原発の4基になりました。



朝日新聞 DIGITAL 高浜原発4号機が緊急停止 再稼働直後、変圧器で異常か



高浜原発4号機の送電開始作業中に警報が鳴り、計器類を確認する運転員ら=29日午後2時3分、福井県高浜町、代表撮影

関西電力は29日、高浜原発4号機（福井県高浜町、出力87万キロワット）で発電と送電を始めた直後に変圧器周辺でトラブルが起き、原子炉が自動で止まったと発表した。高浜4号機は20日に原子炉補助建屋で放射性物質を含む水漏れが見つかり、点検して26日に再稼働したばかりだった。3月下旬の営業運転開始をめざしていたが、遅れる可能性が出てきた。

2016.3.1.

26日朝から再稼働前の最後となる原子炉の核分裂反応を抑える制御棒の検査が完了し、中央制御室で関西電力の副社長や、原子力規制庁の検査官などが見守るなか、運転員が制御棒を核燃料の間から引き抜くレバーを操作して原子炉を起動し、再稼働。そして、原子炉は13時間後の27日午前6時頃 核分裂反応が連続する「臨界」の状態になり、29日には発電と送電を始め、その後徐々に原子炉の出力を高め、3月下旬に営業運転に入る計画だったという。

29日午後 多くの関係者 報道陣が中止する中 送電開始のレバーが ひねられた瞬間、「ファンファンファン」という甲高い警報音が鳴り響き、警報盤のランプが点滅し、原子炉は自動的に緊急停止した。

この場に招待されていた報道陣のカメラが切迫した状況の一部始終をとらえていたが、考えさせられる場面ばかり。

運転員らは原子炉の状態を示す計器の確認作業などに追われ、「トリップ（自動停止）確認して」「異常なし」などの声が制御室に交錯。緊迫した雰囲気にも包まれた。そんな切迫した状況の中で 報道陣など関係者を招待していた 関電広報担当者は「通常通り 通常通り ここから出しましょうか」とのんきな声を上げている姿も映し出されていた。この緊急事態の現場の姿を見て 関電の安全視点は少しも変わってないなあ……と。

もう何十年も前になるのですが、 製造現場で非常ベルが鳴り響いた時に、同じ建屋の中で会議をしていたグループから、「非常ベルがうるさい。早く止めろ!!」と。現場の仲間が「異常時 退避の安全処置を取るのが先だろう!!」と怒鳴り返していたのを思い出していました。

映像に映し出された中央制御室 現場担当者が緊急安全処置・異常発生場所の確認に走り回中 ほかの関係者はいたって暢気。警報が鳴っても まったく暢気なもの。しかもそこには 全くわからぬ多くの部外者がいるのにと。これが 再稼働の確認を得た会社の現場の姿。安全審査って なんやねん……と思う。

異常・緊急時 その場に居合わせた関係者それぞれの行動意識など みじんも見られぬ現場。

現場と会社幹部 現場と管理部門の意識の乖離が、福島原発事故でも大きな問題になったが、全くそれが改善されず、安全基準 新規制値の値だけにすぎている姿が浮き彫りに……。これが日本の通常的な姿なのだろう。

ここにもデジタル値・マニュアルのみに縋りつき、運用・ソフト技術・ノウハウ技術軽視の日本の工場現場 並びに完全基準審査の課題が浮き彫り。よくも悪くも日本人の気質が現れている。

そもそも 操業寿命40年と決められ、稼働してきた原発がさらに20年再稼働できるとする内容がほとんど明らかにされず。報道等知る限り、新基準そのものも原発暴走の原因となった電源喪失をカバーすることのみに集中されているように見える。再稼働となると取り換えの出来なかったコンクリートで固められた原子炉容器など原子炉心臓部の鋼材の劣化・疲労 それを覆うコンクリートの劣化等はどう論ぜられたのだろうか……

また、いったん事故が発生した時の災害の大きさを考えると 電源喪失そして計器・装置破損などによる放射能汚染や水素発生の問題に対する2重・3重の対策はとれているのだろうか…。また、機械・装置を取り換えた時の初期トラブルは重要な課題。今回も長期に停止後、数々の新しい装置が持ち込まれたと推察するのですが、その初期トラブル対処はどうなっているのか……。まだまだ 今回のような再稼働初期トラブルは出てくるのだろうか。

昔 稼働ノウハウとして Copy Exactly を徹底的にたたきこまれたが、再稼働には新しさを求めるよりこの厳密さがなければと。日本人の一番不得手な部分であるが、もう一度 何が再稼働前と何がどう変わっているのか 厳密な視点も必要と思う。

注 原発の建設・補修等に長年携わってきた友人が 中性子照射・疲労など鋼材の劣化 原子炉周辺の水素発生防止などのデータ収集と解析 原子炉の常時監視の状況など丁寧に教えてくれ、材料面での再稼働の安全は確保されていると。

《3》 播磨地域に広がる溜池群を利用したメガソーラー発電所の建設



西神戸神出 合ノ池に建設中のソーラパネルの浮き架台 20106.2.25.

西神戸神出の雌岡山の山頂から周囲の景色を見ていて、雌岡山周辺に広がる溜池群を見ていて、その一つ神出合ノ池の水面全面に架台を並べて、太陽電池パネルを並べたソーラー発電所建設が進んでいるのを知りました。

瀬戸内気候で雨が少なく、しかも大きな川のない西神戸から東播磨の田園地には数多くの溜池が広がっている。この溜池群の水面を利用したクリーンエネルギー ソーラー発電所の建設には最適な場所だと。

インターネットで東播磨の溜池群を調べると すでにほかにもメガソーラー発電所が建設されているのを知りました。身近な場所で 大きなクリーンエネルギーを得るビジネスがすでに進んでいるのを知りました。



水面上に設置した太陽光パネルと架台例
兵庫・加東市西平池 高岡西水上メガソーラー発電所

インターネットで調べた溜池に架台をつないで並べた白い浮き筏に設置された太陽電池パネル例
そっくりで 日照り続きの日照時間が長い播磨平野の溜池群は格好の太陽電池パネル設置場所。
これから 次々と溜池にパネルが設置されるのだろう



「兵庫・高岡西水上メガソーラー発電所」
加東市高岡 西平・東平池



google earth で見つけた加東市の
ソーラー設置池例

加東市東実周辺のソーラーパネル